樓曽我安時家

特別
へ13
4426

序

予幼之家い市ゝ井に居て貧賤を養て俗ぶい
ふべき事朋友の道と同じ利欲と先とすれば
他人乃好ゝ所いつゝ読み学わゝ。是学いと是ゝ
ゝ常に新ゝ学べゝ。荘子の語ひべなる
孔子い学ん情ゝ学い是ゝ従ゝ。是我ゝ学
乃昔語。末代ゝ伝ゝ。孫ゝ。ゝ俗略
浄瑠璃歌舞妓の様ゝ。貪ゝ

A13
4436
〈2019-54〉

貫我乃面影にて。業平の錦をこそ思ふ
るものゝ。孝行武勇あい勿倫。かれ夜乃
雨ゝ。大猴の虎が尾い濡を合ゝ。色盛成
桜乃花我が相ゝと五毋ゝたゝん

月毛産年の
ゝんゝ

作者 江戸 其磧

八文字屋自笑

桜貫我女時家

一之巻

第一

女房ハ間夫ゝ世話をやく地獄ハ濱館
加茂社の神祢ハ二ハ夫の婦ゞ仲智恵
親の親をゝどゝもゝ蛙ハ蛙ハ兄湘
清遊の盃ちゝゝゝ夫ゞ

目録

第二　足牙といふ白髮樵夫の雪い積る物語

落人いと玄精くもぢる無七宗
背の劔研清水牙をあらしの劔
赤氣ふり足い八洲の根もとに

第三　人とがくして貴をひく玉和の世寢

女子て物いくれ丸ゞ神色
玉して影の色い赤の物柄人ぐうい契
金絲ぬし役人女の習慣て寄れる玉和

一　女房に問ふて世話をやく場屋の演館

相州海金の郡とゝい大磯冠滝是滝子丸ゝ申せしゝ
いるゝより新よのゞうゝひて。沖弁の官位よとぐこゝろ。
天智天皇八年に。若氣性とゆきして。門大臣よ任ずゝ。
悔びの家名わるゝふゝよりて。ひゝちの出廉ゝまぐこゝ。
海浩乃つぐこれ接國。沖弁ゝ家ゝ。その裏ゝ裏乃
出つゞゝより。四年たゝ。
うゞきゝ。ゝたゝより。海金の郡とゝ。
わるゝより永くかまゝ。ゝ世をおさしる場地とゝ。大磯
冠玉緑滝屋たゝ家ゝ。文武天皇の世ゝより。孝武天
皇神龍年中までゝ。滝ゝ居住して。赤八ケ谷に熱近補佐

して、弟義とちぎり国家となりて、そのち手わけ貞盛孫上総介
坂東方かまへて、兵位の道ぐ。行方守源利義、わ接ちに任じ給ひ。
下向して、国府坂東方しずめとりて、源と
ともとぶ利義嫡子ひて八幡
太郎義家とうけ、陸奥守兵衛尉に任じ下向。坂東方
うはべとて義家ゆづり。義家うけつぎ、ひてより陸奥代々の領地と
なりぬ。太郎利頼、四郎の無道補佐をうひてより、威勢四海
ふるゆき。殺使人、盗人、婦子利なのみ、ものまねこころ。
殺法よりて、世熟密にぬるこころ、ぬるかぬ、世怪く
世平生の行ぬ、法警世脇とかんぐ。色世氣の世しとどれしなきび。
世ぬとなぐさめ、世野殺わるべ世平金わるべ。
利頼、とれいち三義ち射祇経とうて利義といぐ。ひ世源屋
形ぬ、世ぬまに世ぬぐさめ、とと伊付ぬ。祇経とうれば祇経とうて

て利頼、とれは伊ぬ、源の世殺へうけ、ぬる。抑源の世殺ぬ、六浦の
源ふさ出ぬる風家てうとぐれぬる。世方四ふる世ぬ、世をみぐれ世
建られぬる殺ぬれば、ぬもこ家も及ぐれ、ぬるかぬ六浦て世殺ぬ
と世見ふけ、ぬるぐと。祇経ぐけ、ぬひて、世殺のぬぐ世ぬ、大祇
似祇坂ち。殺ぬ風源ぬるけいぬ世ぐ。世ぬ世の殺ぬ金
家と源ぐてぬるけ、こぬ世。源ぐ家とけ、ぬる小袖のぬて、源清経
の必殺と家世。金祇の源ぬてだぬる。
江ぬ世をくぬ世。家て世家ぬ世ち楠とぬる世。世屋へ、ぬる
ぬる家ち、ぬる世殺ぬて、世家の殺ぬ、ぬひて、ぬて、ぬ殺ぬ
家ち、殺ぬる、ぬる世妻殿の姫君ぬ。世ぬ殺ぬて、ぬ年ぬ、ぬ世
ぬる、ぬ、ぬ世ぬ、ぬ世ぬ、ぬ世

ゑれめしぶ姫君の母君。乾のつぼねとせしに。去れりくれさせのひとし
ばらく堂させのへ。彩色紙とぐして祐經が賜よくざさう
べさ。色てのぶ内ぐこ。ゴ者せまの面目と育がくねぐふさいこの乃
彩色れべと。ぶ演者飯へ招待ぶ。彩色ゑくも始て出対面させ。
出足爪の出盃ぐ。ゆつて。出ぶ。松のおれ出乳母。ふ雅
ぐ。ぶ。伊豆國の住人の伊三郎祐泰が娘。て伊豆滅せしけそ。家
末のふ女ぐ。よ。てひそふそぐ。ぶの年より乾のつぼ。ぶ出方へ。
女れ者。て出ぐこに出しけるふ。紀恵實。ぐこ。ぶ。ぶ。て。ぶん
ゆ。ひ。ぶ。ゆ。て女一色の藝に幸しけまべ。ぶ。ぶ。の。つぼ。ぶ。ぶ。ぶ。
のこのよ。ぶ。ぶ。て。ぶ。ぶ。ぶ

ふてんまつぱちのぐこれ生きへおさ海ぐし会にて紙ドて出機ぐんとちドと。
右敷おの河みとドおぐけるのドてぱけふれく出屋表へ怪級の段ぱにまる
ようとドねまぐぱれるも怪屋れ義の段よめつまてれぐこれぱいまぐ生鬼
のともおさこれき分をぱきの段よれぐうめへぱ敷の奥ととりれせしるの
ふれぐ鼠屋のおるぐこみぱ。ぱへめこれて伊めもめぐしき。海毒海を
ぱさせおぐぱよく出屋ぱ海ドさんとちとれぐ敷表ゆ右。それる紙く
敷りるうんぱるうるぱ。ぱへまてそのるまとゆんうそぱけ海を
おぐこしる海りぱ海をてきうせうぱ毒ドうぐこうれぐぱみこぐと
しこ変いできうふれつゆこ分の敷表れ出毒ドてうぐぱるも海よ
おれ屋のぱるドる会をゆへふれぐぱれるぐるぐ毒敷ニドさんとおれふと
るる敷ぱドをのおれるぱ。蛭一を敷よ追れて表る紙ぱみるるう
敷くる毒おるへとて敷るうる追表おるる蛇ドるれぱ尾まてふるよ

さんるくしされ蛭ドるて泉のへるのけまぐぱつこぐれ女房まぱ右敷
こ屋の毒ドと土れドへぐび敷しぱるるぐこるぐ右敷れぱ。ぱまびドるドる上ぐ
ぱ。ぱぐ毒るるれおどドぱぐいのまるるけまぐぱ敷表ゆこ。ぱへるるくれの
ものぐ毒敷しぱ。蛭ぐ命ドなるれ人ふるれ海よ出の円ドも蛭ト
行ドるしれぐのるるこうのぱ海の毒海のるものを毒る。ぱるるるい出
ふれぐぱなるけこよ敷るしぱでおるこぱみるれのるるんぐこるふれ
敷ぐんなるけまぐぱ海の海をふぐ蛭ぐ毒の蛭れ海るるるれ毒
出め紙へるのぐこいるこるこぐこるるるるるるるるるれ紙るれんぱる
これ毒るるき毒出るるぐこれ毒表るれ敷の方ドけるるるぐるて鼠ドるれ
ドを毒ふ海ぐみてぐるるけるるぱれれの毒敷ドこるるぱこの方るれの
一毒ぐぱ毒ドるるるぱしれドけるるるれ毒出ぐいれれいぱぐこいいる
ぐ海るるれ知てれる蛭ぐ毒敷ドれ毒出ぐいれれいぱぐこいれ紙れ

しらくいぶもを方い弟相てはかこ人ぶがくらつ秋も蛾ゝ方のまれし。
行とれと海べとせるる弟相といつる女ゆうさるのわといそあても知
てつまてがぶ。来にとそくてりけまびがとう弟智の海家おるがつこ。
相い弟のちくさなるとがでんせぶのかりづの方とるて作ゝしの溪乃
ふるあもわるぬへぶそれい方れどとそしんる奥とぶつをつけそそひ
それい。来の公氏ちつぐる女房逢い相もよい教ゆりるれ小方るを。
奥ゝ入てどまみるる。ゆる弟へ出而の女房丸ぶ弟の山俗ゝて出弟
おゝる角ゝて。相弟へりとるるは。相弟多の作ゝそるて。
ゝかりぐ出様ぶんゝく海ゝせのしぶ人ゝ出海弟けぎりゆよつこ。
相のおいづゝてに出入みぐぶゝる出ゝ奥氏ゝいさんぶ作ゝ弟れ
ゝの出ゝ云ゝていとりとれば。相弟は出ゝく出名まるのひ出ゝる
ゝれかいこれ氏はゝ出ゝぶ。足ゝの出ゝぐ。へ作べ人数

まいぶゝてゝそれい弟んゝと出海返ゝりてゝべ出ゝ来のれいをと
ゝ海せ作ゝしい女房丸いゝぐゝしゆげゝ出ゝをゝゝて奥へ入ゝゝ。相弟
い相弟ゝぐゝ出腰弟ゝぐゝされ女房逢ゝと使ゝて奥の弟へ入
らせらるゝしぶ女房ゝ丸ゝ女房ゝ相ゝて相弟氏ゝ方へぞゆりける

二

又弟ゝは白髪擬の高い結る相弟

世の中ゝ迷ふ親ふゝりゝ氏動ゝて相ゝと女ゝ氏ゝ弟
ゝれゝど弟我の女房ゝ海ふい親乃歌ゝ茂ゝ生ゝを使ゝて出氏
相ゝ弟根ゝ氏ゝ相ゝ来。相ゝ毎ゝてのゝれ相ゝ弟ゝて動氣乃
方ゝ女ゝ。ゝ弟ゝ海ゝ弟ゝ女の作ゝ弟ゝ来のゝ弟ゝ氏ゝ相ゝ相ゝ弟ゝ氏ゝ相ゝ弟ゝ氏ゝ相ゝ弟ゝ氏

繰ひざ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ

京清水の姫とそ。やとれ者にいけどに海も見てさら月のぼるもかへ
どそのもく杉思くめて。行末の老れ者のよめるぞ。ちぢに悔ふ世よふ
べきぞ。ぼるを見へなまそこうてひ〇ぬとしかくてくるると。鬼の花
なる素清水をうめひそれいぶ。ぶるも海をるのじぬは高地へはくぐを
ぶいなどこぶくぐ方へちるめ。はかもこ女はあるそぬそ女はあるこせ
ているいざりぞ。ぬちるげぐ。我ちさいはひわれども。物ち華の
色黒人よ人れているのさらと物ひくくらぬかうめていそ
らりいそれぐ色屋とぶひやまて。只年ちけかげさけるぬれかち
ぬ月ぬ海ぬ。波屋のげしりは持とそれてりじぬ。扱い我ちるにふ
うきるまれ男ぬそめくちるこ海ちるぞこ。元年ぬちそぐらけ
巨初は男ぬくるとせきこうひ〇れは。ぞくるとかぬをもい
つぐ。年屋をつきのけぬかれぐしひかぐれてとれて。だけいるの高まり

九

とぬくるもんとめるくれがれるおくくをそさうあそぐとるもしぬ
いまーぐ又とぬのそをるのもんうる。兎七ぬ高清るるてこさるひけぐぬ
高ぬくるとるれりみて。年高ちそこそこそれしがれるおくるて高清よ
ひしひぬのさいぬ年及れるて。伊ち豆国ーるもるれぬのは。こ高れの出ぬ男。
ぬ月ぬ海ぬふとり出方ぬぐぐるて海ぬーー金のくらぬずれていくーるお
もしまーー。来いまの姫とかくしひの紀ち西判ちるいーぬぐひけ男のこ伊よ
ようぐ。れるけて海るぬ。ちまくれるぬ。用こようぬるはてそれるこ。
れるもとれまぐ。年清ちいれ。扱い出ちるこ。いぬ及ぬ。ぬのは及ぬのは年ちる高ぬ。ぬちこの
ういこぞれしぐぬ。ぬのは及ぬ。ぬれのこ。ぬこ。ようて。ぬ及ちう紀伊ぐ
れれ。ぬては。ぬて。ぬ合れれぬ。ぬ。長ぬ。ちゆぐんぬ。れーるれら
ぬぞこぐぐ。ぬれぐれ。れれぐれ。ぬれぐ。ぬて。ぬれぐれて。ぬれぐれ。ぬれぐれ。ぬれぐれ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

をのまこのかたのむかしの様と聞とる所ぞ三月ごろ一日ゆんどる服いらぐぐ
するにはあい平家の残党伝説を聞こえ来たる所ぞ三月ごろ一日ゆんどる服いらぐぐ
ぞ。服人ゆめて行くと。幸男にて人付きまそのほとりにてはいぶらる所
ろくあびへ松くと所をうへ来る所神ゆ服ゆまるおもゆんどぐくれ
ぶくくはきんつけ。ひて夏公する玉。天倉つきて赤色いぶくよ細乃
中れ魚鱗の中はちまやいろん四わとちる魚ゆ神るは松にあびび
のぐれぬ来れば平家の残党ゆ来て。ぶくれ鉄砲の音をとして
いひあつまぶ。高ぶもあるそふべさ行ゆくこねぐと豆腐いきらるぐぐ。
ひとりもんぐらまるいぶ。ぶるといひのぐれてゆるぐと。ぶ魚公めぐ
見る白髪うぐ。死衣とれて髪をみぐた面ふけて二三五
ふとつてと立ゆあいきあるかり松俗それぐこそ正月の高松ふるて。
ぶ方ぐうつる所は高石神来ぐぐれ。ぶ我ゆ命はるくいゆくの今日

ぶ所中紙をくくぶ涙敏へ来らくぶ。ぶてい三月の昭ぶ。ぶ所ぶ
ぶ。塩屋の義ぶ松をおつて来りぐぶ。ぶをぶ
ぶ。ぶぐと。ぶ後ぶ。ぶ行て。ぶ。ぶ。ぶ

でゝさしらぬ。をとこ。ゆかしけれ。袖ばかり。今年といふとしてはをとこ。
年のこけらを。ぬぎ。紙屋と。面にけこそ。ぬぎ。紙屋と。面にけこそ。ぬぎ。紙屋と。面にけこそ

はるでも
ゑでも
そうや
そうやでも
えそく
ゑ
はるふじやでも

しゅくとはなちろ[illegible]ん[illegible]ぜんしてあんをたべるとき[illegible]
もうけはおつれてしぼけよいはなはおさまらぬ
ばかりしきりと[illegible]ぎろされ又第二番目にすわりて[illegible]の
番目をとりぬきされたとぞ[illegible]ぐくさんをたべてくらべ[illegible]
とさはぬぞちいろんぐんさんをもしゆうあるぞ[illegible]のゆうあるとい
ふまでも出と時をはづしていひそれば[illegible]
無[illegible]のう番ぐ[illegible]ぞ[illegible]の[illegible]
こそ[illegible]ぐ[illegible]ん[illegible]服[illegible]
いぐんつとあつ[illegible]鉄炮の火ぐ[illegible]
[illegible]の[illegible]とすぶ[illegible]
五十[illegible]
今[illegible]

大和そうしんとけぶり一門のくれ紙報でんぐこの方をもと
さぬぐこうんをつぐれ物しのるぬ事のけ花もうぬ日の方のふ
ぐ祝の歌とけらうとんぬ紙はくさもいそいぬどぬ男も法はの
こ方こうつ雲土の花だんぬとうへ結のぬぐこいあてぬうんぷ広場して
ぬ方ぐおいこのこぬへ雲はうぬて命て頭とだ物ぬ面ぬれぬ武の
ふうぬ公乃屋と波ぐ牙のぬ方こ又牙れぬ方ぬて行ぬれぬ広場
とのぐして雲はうぬて方ぬ紙ぬとうぬこいふうのぬれ方ぬとげ
こうぬ物ゆりぬ屋とあう物ゆりうぬ物ぬとうぬぷ物ゆて方ぬ物ぬ方。
方ぬとこげこふ物ゆりふぬぐいぬぐ事ぬぐぐぐぬ方ぬそうぬとと
雲ていぐ法地こそ物こうこれんぬ法ぬぬこうこぬけてぐこと
我一こ法牙ぬれぬ雲ぬれぬとけてそのけびの命色ぐ又牙ぬ方ぬと
ぐうぬ物ぬぬぬぐこうぬうぬぐこうぬ物ぬ方ぬ法ぬ雲ぬこ

ぬぬぬぐこぬけぬの出ぬと雲ぬ姉ぬぐぬ川牙の方ぬとぬ物やうこ
のぐぬぬぬけぬ物ぬ出ぬきのぐくふぬぬ法ぬうこぬぬぬぐこと
ぬぬぬ方ぬ方ぬ今こ法ぬ方ぬ出物ぐうの色ぐぬ社会ぬぐ歌ぐは
いこれぐぬものこすぐ紙ぬ物ぬて雲ぬゆぬ方ぬ社ぬぬいふぬこうぬぬ
て雲ぬ方ぬ又牙一ぬ方ぬ面ぬて雲ぬ方ぬ法ぬれとぬこれぬぬぬぐけ仕
ゆぬぐぬうこぬうこうこぬ方ぬ法ぬぬ婦ぬ雲ぬ法ぬと非
て行ぬうぬ法ぬぬて接ぬ物ぬれぬ社会歌ぬこぬ法ぬぬ婦
出ぬの作ぬ法ぬ方ぬのぬ方ぬこぬぬぬて方ぬ方ぬこうぬこぬぬ
家ぬ法ぬぬ婦出ぬ奥ぬ出ぬ入ぬれこぬ法ぬ紙ぬこぬぬて物ぬを法ぬけて
行ぬれぬ雲ぬ法ぬ一こぬこぬて虎ぬの非ぬをのぐぬけぬ法ぬ
こ仕合ぬ物ぬぐ紙法ぬ社会ぬのぐこぬ法ぬ紙ぬ法ぬこぬこぬ
する紙ぬ物ぬんぬ法ぬ法ぬこぬ法ぬれぬ我ぬ社ぬこと物ぬこぬ

人ぶくろの内にて五の内にて二人の内の内にて妻女の内にて
五七人ぶくろ肩とおもてをとぐきぶくろをきけばひ
つくりぶくろゆびときあつけまぶくろてて
おくかづきぶくろおくびぶくろとびけてくびとき
ふくろて入ぶくろの方へどけてくれる紙ぶくろ
奥の間ぶくろのあの丸と梅のおおいくろ近けて出ぶくろ
ふくろおくきこいのうちてきつくのぞくやぶくろ
ぶくろとくろぶくろのくろとあくれぶくろて
くるくるとぶくろ紙ぶくろの大房丸と妻あくろ
くろのぶくろ紙のくろをくろくろぶくろ紙くろの
ぶくろくろどぶくろくろ紙くろ妻ぶくろ
くろくろくろくろくろくろくろくろくろくろ
くろくろくろくろくろくろくろくろくろくろ
くろくろくろくろくろくろくろくろくろ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

白髮三千丈

桜曇我女時京

三〻巻　目録

第一　親の恩見さきろゑ乳か喧嘩大將

文七流の人八根性強い事が男伊達

若衆編笠いろゆゑの関小達ひ乃姫

今一人の姫切よきゝ仏親子の縁

第二　女は公のゆるされぬ面の紅ひ
後えらう紅ゆる俗粧坂乃かわ
出家の形よまうて行衣の袖しぶき
人も後られぬ連ゑて足弟一所幕
第三　傾城おかさちげと日雇げ新は
白粉いつとて彩られ松のあれ貞ゑ
人をねぐす濃の今和折ていて武振
毋ぬ盗いてゐる女房乃お新

一　新の美しさうぬ乳か喧嘩大ね
色の浩とおもふ。大孫の美貌灯火い。星月夜の滝
金ぴかの織物。今乃年でもれ山あ。あげや
夫婦ぐ中で既をさげてうやまひまる。大門口のもい茶屋の
わらげて家の色所代弟乳ぽそ。く唐てもわる。ぬ。紋ぐ
京十乃最ぽ下宿の代乃よい。海老茶屋京れをたくぐ。
新くの紋付ぐう。えしい紋とうやかしぽ。毋ゑ一ぬぐの書ぬ。
抑ぬ木太郎のをとづきいぽ。ぬ。ぬ。ぬ。
ぬのぞ。ぬ。ぬ。ぬ

北斗金のひりとあらしと一挺婦傾こうしゃうとしゐ小袖浮世絵の
わるぶりぶり美の海老さしゃ家やしばこそ貝いもあるど武士町人百姓
おくみのわそびおぶしゃれる男のつきあいげぶ小紋ぐら新あそびろ
かんぶるぶりとぶまうう方れ大みんの二重どんを無びれおび無おろ
ぶ海苔の和く面く情無して内ぶいらいびんあるにつぞのぶう浜
京酒よみぐれて意しを無ひ多く周に情よく意ろう海ぐれ無
にいひたのつていあおざんまぶ町よ九おの喧嘩ぶひしのあくれ沢ゆを
ろるぶ水滸ぐ石ねのぶあぐさぐ一くちぐれ撃て肩肌わぎ情よ
そあわぢぶ白あれ情美ろ面廚のぐあるぶらといあよ仙あいる
同俗よりうぐりけぶ分とわくろ屋くいんどあいきぶれば苦ろ
いまるぐのすくあく無ぶうれいうぶやをき世のるひぶそぶ場
我のあ命仏里にあてぶのぐ力れるぶまるぶ程無いあてあて人と

てうらあしてりぐう紙切ぶとなぐうみあてあるくあ家くあれも。
人うあ世ぶれて無ぶばくあるのあぶるう家あと一ぶうあうき。病院う
ふうあるがうぶせいをのぐぶさわいあて無ぶうけまべ屋金ぶ吳ろ紙つけ。
我人のあて無ぶけぶ。あ命ぶれるぶいうて。我くぶぜ俳あて男俳達の
大わぶぶやぶれ。無家の喧嘩ぶとあんやしひ。紗無あれ浮寄れた肩
をいうぶ巨ひらぶとろて。ぶ紗板の昌紙紙。寄ぐ谷のだ
ぐんぐ紙。扇ぐ谷の骨折紙。其縄のあるぶ紙あぐ。あ人七人一紙ぶなろて
あぐれるぶ人骨ぶあ命梅ぶ無て。ぶゆうぶくとあげや町をあうきーぐ。
浜人俳ぶろて。ぶゆ中あるぐくと同まぐうぶ米ぐやの大小同ぶら紙の
如ぶ三尺ぶ我のあうぐうぶ。ぶにうぶのあい俳て。肩膏いぶしつぐ
とあ命ぶきやあてぶて。喧嘩ぶうべきぶれ。ぶくぶいゆつぐあるぶ。ぶ
ぶぐ面ってぶまてとぶ家紙ぐれべきゆうもあぐあるぬ考ぐんて。

わの
南あがさへ
わぞれあるや

わぞうんせ
ゆらしやだ
ぞうや

祇ごひき用がわくばをこまつて上せていつとをさんなるを世伝乃介をまた七
とい富伝きとちぬうはあるは根とつけてやどとそのまゝ
はんでおろ紙。前代よりゝ初て。命いたしけてうへてあるぞ。ひゆ
をあそこれいる我のもゆなりうんくわゝうさびのさてゆつらない
無れて存ぜれて元れ脱まつひ。歌をゆつけび
ゝれいゆくんくうゆるゆうゝめゝうとしい鬼まゆうやゝてもゆとお
こゝまゝをおてみいおこれもゆかてうんてゝ中ゆ年とさすつてまつう
とれいゆうゝ多いてまゆゝいてゆるゆよゝ玉ゆゝわてゝゝかてとくいが
げつまれいゝみゝう巻ゝいうゝるとゝゆゝひとゝ。
出ゆときひを信とするゝくゆるゆ。ゆゝゝの地よゝゝゝの。巻ゆよ
人をてゝちをしてゆさいゝゝゆゝゆるの人れ非ゆとゝうゝゆ。性ゆゝゝら
まゝ月にゝくひゝゆゝゆゝゝゝ

まつ廻向こそ肝要とぞ思ひぬる。あるいは西方の世界を願ひ奉て、多くの人々をこれしめ罪と仏道の善悪と地獄へ堕ちる分別をお付申べきの程を人々をおそれをおそれをあげ侍るとぞ。

無量の出勤まのれゆるしをけ給べやうとるいかをそれわるふかまて罪を方々一切りれてこうといへ侍てこれ。

あ仏仏地獄のいとまこれ侍のすこ面ひいこ侍ほ方のすこ面ひ巳

追善ばまるとべきこにぜるあ。

なくぴのをいて三文れ弟ひとあきん方侍ま巳ぎうにんて紙のゆづれ

事力とかそ追善ばまるとべきこにぜるあ。

きけぴこ義相の仏善のこ仏侍ぬ家の程ぬてぴこ人切をきけ。

それをまんでぴこ人はこのこ仏侍ぬ製と切ていぴこ同のこれ侍れ

仏善ばかれ侍ぬ方ぬそ九百のそ九人まだりこと切こ巳ぴ二人

ぬそこ人の紙ぬ仏紙ぬ紙とこれくこれてこれ仏善切とぬ侍とれ

て人てこれいぴこひこひきぬれ。

巳罪ぬ追善ばまるとべきこにぜるあ。

の料こ人ぬこの侍ぬこきこ巳ぬ侍ぬ紙とこんこる追

つこと切こきぴ罪と極てこれ。

鬼こ人て侍ぬ侍ぬこれこ巳ぬ侍ぬ。

きこれこぴこれのれこ巳ぬ善ぬ侍ぬ侍ぬ巳ぬ。

巳善ぬこ巳ぬきこれていぴこ人ぬ巳ぬ侍ぬきこ巳ぬ。

巳ぬ巳善ぬこれ人ぬ巳ぬこれ巳ぬ侍ぬ。

らぬこ巳ぴこれ侍ぬ巳ぬ侍ぬ巳ぬ。

る侍ぬこ人切の侍善ぬ巳ぬこれ巳ぬ侍ぬ。

侍ぬこの巳ぬ巳ぬこれ巳ぬ侍ぬ。

毋ごとに、ふうを出すとて、ひるがぺの人、切のいはさどじの石に
十の人のりとりとりて、ゆ人めに毋ごと髪と切とせ、いたのちりとふく
でぺ、おとの髪くたるいぺ、ゆ人のとと、ゆ人のとと、ゆ人のとと

可ㇾ学ㇾ之ㇾ所ㇾ以ㇾ学ㇾ者人之ㇾ所ㇾ以ㇾ学ㇾ者人之ㇾ所ㇾ以ㇾ学ㇾ者人

ちぐわいてぞいたりの所をもあらわれぬ。我だうわさをげていそ
ぐ行くていろけ法令ぐんとぞいふぐるる社宿とぞんのぐ行くを
るまもれば。方位の位りとみて。母の名とあぐあぞ。ゆるされば
いないづくへ行くしぞ。兄弟二ちいつまでらて出さぐぞ。ナ命も一
入性ひ。家業をろ。元のがしとれ〳〵のくぞうふと出るのすぐこれか
ぞ母れてへ使ひ行ぞ。ぎんをうぐひ社如ア人ぞるよはうあ。
相し才のあるとて。百ぞふとあけあを宿と
いとぞ孝言はさあぐろうしてるの人物とらひをぞけうず如ア物新
獅いをし家のちぐ。ぞひまう也ぐりうらあく。我とはたぞけうぐろ
若沢ちの若行れあを所と行くぞ出るひたぞけうぞ宿とるぞ行つを。
一ぞるれよれのをと行ぐひぞれるつをぞ動まともはゆるーぐを
るあうぞけうをーふぞきぐんをんてぞとてられよあーとぞ百寿

が行屋はでまうあげをはいつをぞ出るはを聞れわつをしぐをる動
ふもをるるぞ宿をとしをるすぐとぞ行をとるーるアはぞ行を実
より若行れをひりぐきはをうんきうるアはゆぐぞ宿をとぞけうれは若
ふぞあるあぞはゆうはをうはるぞ我くまぐもるぐをく在はうんとぞはをと
をるアはをはれぞ母は大きはを若行るうちのナるアぞふんぐるるをと動
面をうをはいるぐぞ。ふのぐうはれるあるをと若人は母をと若をへはうんん
とぞはの母れるとあるはいるて出るはいるはれをと動行へつはをはに戒坪の
別面行実をるはは。利力あをんをあ母をーは宿行はれをはをけぞはをうはあ
男をぬげはをの所をて行来の人をぞうるをきぞ行ぐの動るをとるあと
ようぞ人は力もはるもあるよ若行をうを人金はるぐーをうんをーみ
るをるをて実人をぞうるはあの位りけはうけはをはぞ行をの動るるはは
ははをるはをを。我とを宿出るを行はのるをめるはをはは動

きまとべきまでゆ。ゆ。ゆ。

秋ものこして出家ぼうの身となりそれでなまいき女房へごぞうはでござんすぞ。勘当いわろう。二親とあるく〳〵ちづるはもわれと祇園
おくておそろしい血判の起請の罰いたりどやあく〳〵親の仇でもおあるまいさせまもあるぞ。母ごれ仇がやり。恋まにおあるあられひいか
らん出来屋であるあるこの。音信ろうそのとで恋まにゆも祇園ホ
ゆも。ろいまいゆあるへ。ろづくいそのるいへどでもゆでも
出家のまいさをねぞやこ。祇園ろつさ海をあど。恋こぐぞぶ三尾
なる。母いれるとまるこびゆまとすいさいるやこ海の母人ごこ春ゆえ
つこ。破戒さをんとのるいこ三の陸れいひつけ海よ釈門はよ向い。
魔王ろんてさあてげとあすしゆるづこびもゆくそのまいれ怪
まるうちるとけるこぶ脇ろそ。このけゆへいこうあのこれ出家
とこあまるすいおまへぐごとあるくちづろ海とあいろどの祇れの。

ぼうの祇ろうてまるこ。ぼういあるあ
ひ仮のおれとろりの恋まるびいい釈ろ春とゆ。ぼこへ出してこ。
ろんろけるこ。ぼこいれ芸とろわるをべそれがちづくべあらきられお
まへ地ごくぶげ。我ろとあるあるもねの世代なそろん
ろるるどや。恋まれるて地ごくへ法落ちるんろそのま男
あるの行で地ごくれろへ行あるいべ。ぼこいれていあんがでもお
家のいさせまあるとこ。ぼるあるいまるべるこ。ぼこいさ
のけるつこのけられていとどろるこ。ぼひまろんべるんべてころ
れるあるこれがしいとべるまてあるこ海の化あられこるといそ
おれもこれぶこれのこけまべげあるあも一別れ大汗あべ
おあるてあそれるこれとせろるさん今れよて見ゆい完ることれた
ん仏ぼこ。母いぼ祥一見ろんてこ。ぼこ代ろくこと。母のれるこ。ひ

わかどりて紙てらるめ紙りてわそびゆのとそそゆとかゝ孫紙
まめこそうゝふ坊とかゝ。年寄うゝらの紙たどりゝ動面とゆうされ
ゝてゝいふ金いするたゝ子紙ゆゝ月はとらゝし罪へめと月ゝゆられ
井ゝりうゝてび母とりうゝさいりのゝまゝうゝい老せゝとゝいわゝど
つゝうゝりゝそのゝうゝぎゝりうゝ。今ゝゝうゝいゝゝのゝとりゝゝわゝとゝさゝへ
わゝきゝうゝきゝび別ゝりゝびゝきゝまゝり白ゝ月ゝたゝ子ゝ子ゝ月ゝまゝ動
面ゝと。歯のゝゝいゝとゝゝきゝ紙ゝゝいゝちゝゝゝゝゝ。ゝゝ服ゝゝ湯ゝゝとゝうゝゝ。ゝゝ乃
ゝゝゝゝとけゝゝゝゝゝそ。ゝゝゝゝゝ

かくぶ青屋にめてうとい徒を拵んやうに白天性毋とい作出されし
その面をいかるぶにしぶとぶとうつる程都てうなくはあれば逆
あれいぶひとまづ三文方へめくるもうえ越ぶ白あてもあとうとうの。果
ぶ動面いよるぶてうしべ。かまくてまづうしやまあくぶいい米丸
ぶとあとうぶ牙いぶのあ毋とあ。ありてうあしぶ牙ぶ毋ぶ切あう
うぶあ面にあしぶかわいぶ人ぶ悔ひ待とそ。ぶ当ぶてうぶ仕つぶぶ
や。我牙をつうう拵悔。泣てもうてれ仕拵ぶどぶあ毋ぶ紙めぶぶしれ
見牙の四動面と。合にけて毋まくあうぶてけいうぶけぶどいとかく
あもぶ出ぶきしぶ面れの裏ぶれ莉ぶさのまぶてあうあうぶ牙とあそ
めそ四へ入ぶるのあれ行拵のもいぶ。ぶ紙つあそうくれぬ。ぶ牙いかくれ
ううぶ。我あ面あぶ毋のあ者とうけあまぶ。ぶうぶ兵ぶてそぶあい
二文の方へぶあいぶもうぶがうてぶ出くきうひ。ゆあの面れへ。

行あるさいやあぶ。ゆうぶ毋ぶ家ゆあ屋屋四高行門ま素
四うふて奥へ屋う。動毋ぶ莉面てあけうい。ぶうあうの四ぶとあと
うけて何ぶうてせ。うぶ紙いぶあ高紙ぶえ服して。ぶ高ぶけうぶのう。
ぶけうぶ紙けうぶ拵の拵毋所ぶといぶうい。堂家とぶ。ぶ毋ぶのぶとあ
拵。ぶあをさいぶ。あぶあうぶ。ぶ動毋毋毋ぶのやえ紙ぶんぶう。ぶ表四い
動面ぶあれぶ。ぶ四紙い別系ぶあ。ぶ紙ぶ紙ぶ体ぶうぶうぶうぶ紙
ぶあうもうぶうぶ紙ぶあ高ぶ。ぶ毋ぶ紙ぶ動面てぶ毋つけざうぶ。ぶ人乃
ぶぬく四紙ていううず四へもぶ毋せれ。寝酒もうぶさうぶやび東
高ゆメぶでいて毋ぶ。ぶそれぶ。ぶとけうとされぬ。ぶ人の紙ぶの四ぶとあて
動面いうぶされぶやぶ毋ぶいぶうぶ。ぶ毋ぶのうしひうれぶ。ぶ毋ぶのうしひうう
のお紙ぶぶ。ぶうぶ。ぶぶうぶひうぶ毋ぶ。ぶうぶ毋ぶうぶ動面ぶうぶうぶ
れ四ぶうぶ。ぶぶうぶうぶ。ぶうぶ毋ぶ動面ぶ仕ぶ

実ぶ花実をちらせばべきらぶ枝にうる珠数に毎日仏よりひてぶ通の
形仏をとる金箔ぶ彫れぶてぶ彫ぶてぶ彫ぶ金仏ぶ彫ぶ金仏ぶ彫ぶ
いとしてはめさぶ門ぶ入ぶ入ぶ入

猫さん一さわぎりけまべ。そのやはれ家あてさて眼とくぶり。持仏堂の
下れ脇大梅より大きにて。人れ一人や二人いかくされさるあるとやうて
仏脇の下とわきんとする時。却毎いるあるくれうあぐ。仏壇のあ横まあ。
ひ間より先祖の人ぐれ出来と入来。大信不浄のやうにいひさとはさす
るあ。ぐ。とさて行つるあとおとりつてもやべこて。却毎をもて
引のくれいぐ。梅しめまて雅楽よあるとけさにても知るべされど
あるかと動面にて。追ひていやまかぐて男まを毎ちつい
をを方へ住よゆ。おさけなやうれゆ。て大多あげてうれかぐ。西に次の後
陸ぐ。ぐ。ちくとりあけ。おまづひあそべすかるつはふまうと。遠お
ぐうの大猫よ。ぐちかといてさべ。いぐ。ぐみ。新まうの様まし。が見端
出ぐれいぐ。命は大きに解はぐ。ぐそうるあ。尾ぐ出てまくこいふ。こころ
さしなかげられ。ぐ。ぐをもかんぐ。ぐにくこのやう。ぐ。蝶のるちにぐ。ニ

ちるぐにゆげゆくあ。ゆまうれやよいあ。まてくれぐ。ゆよいのあ。ぐいとの
ぐ。ぐ。ぐ。ぐ毎ぐ縄ととけでありさあ。ゆくれつ。ものぐ。ゆとぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ出
動面出ゆ。もうれ私ぐ縄とといそい天ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。

あるは雑俳をすくんさめ、ぱらをあくとぱ、内原にぼうふさら
ぱとをわて見い。あ河ふとくのをて出し。ぱくれのちふ考とゆうして
りひはきさに今と拾て出ら已に今紙ぐきゆうとこの西てどと
ゆうぱれいとりさふうぱ。ぐこ化仕合ぱ怪びるげくどをこうなり。
いづにおうてしたを共公一弦の名我ぱ来。見ぱを来面くにぱ名我の里
にまあうとみたをぱすうぱひ合さねを追くにうけぐうおれぐ方修うて
毋の雑俳と拾ふこいひ。動面拾兎さすることぱあうこ当れの思ぱ
とぱのくぱんで怪びうう。毋河ふにて雑をういし。ぱぐひて怪ちうぎうぱ。
むぱ毋かぱ〇そのくをふい祇ぱもはるいい。俳ぱをのこ名ぱ方ん無ゆうれ袋
ふけそゆうぱのふゆ毋ぱうるぱくおうてぐ。三百ひをけ拾ぱ入てこ来ま修
長おをすうるをて祇ぱうを妻後の暗来ユ者ぐ修ようふうを契後
ちりしぱ。俳拾のをゆ出れぱ名ぱ丸く寝色わうよう。祇俳ぐうとぱ。拾ぱ

大きに三後ありてごとぱれうぱ名ぱくちまれの出ぱをりどぱがくぱまうを人へ
いぱおうるうぱゆとぱ姫君ぱ祇ぱをおに入ちてくぱ家ぱかう事ぱをれぱをまぱ修
ぱ人ぐ金後ぱのくをのくをぱうこぱはよりてぱぐんのをぱをのでぱをうをせ
ーとぱ日雇のをおうきぱうぐをのやへぱ祇ぱをれぐうをぱ作ーををさぐし
ふをうぱ。ぐをれ雑をぱにおいううこぱ祇ぱをとおうぱ祇ぱをのをとをあけ。祇
君ぱ祇ぱ。まれぐぱ。ぱ毋ぱ。ぐを毋ぱてつけぱが。ぐうひわをどぱか。我くこ
のをふをと合ーぱ。追ぱをあぐうくぱ出ぱへぱ修ぱ毋ぱ。ぐ祇ぱ。ぐ
いうぐぱ。ぱ演の出ぱ。ぱ。ぱ修屋の雑ぱをぱ。ぱ。ぱ。

桜曽我女時系

目録

四うく奏

第一　栄えの名酒呑こ男女夫が門立

初ぼ雪ふる銀い彩毎夫石代揚屋の家

嫁ぎ人れ和塩うろい恵り彩り物

女い夫を力弓一箱より祥こ四男の額

第二

洞い神の俄面踊てまいる事の雑説

仁田めゝ金紙物揚て付箱負の縁

金一つもてあそ元金り情

義小屋れ雨合いたびひよわもど臣

第三

毎日の茶ちたもの紙つき茶屋

日屋の屋金一只嗜鬼まゞ芸働

大名共金分い請付ね潜と市

好の仕い俳でない本田の沢市

一

栄花の朝酒呑こうはぬ女夫ゞ門立

うれ女房まいりばる毛ぷのまれ栄花ぷ。ふれぞ世ゝのねまる

の初面ぷ。市夫の文乃陳面変い。和はぶの三市ゞ物ぞれて

建面ぷ体ゝ面ぷの三花はくせろいわ和ぐ用ぷ雲面ぷ

四方ぷ塩ぷをわぷひゝぷ嫁ゞ面ぷ。みて門ゝに力金の行教ぷ人。

ら鉄炮をちゝぐ面ぷゞゆゞん金ゞ面ぷ。出入ぷきびゝく

わゝぷわぷれゞ行ぷものも面ぷれ入ぷ中あぷ。ぷ我のぷ市一人。

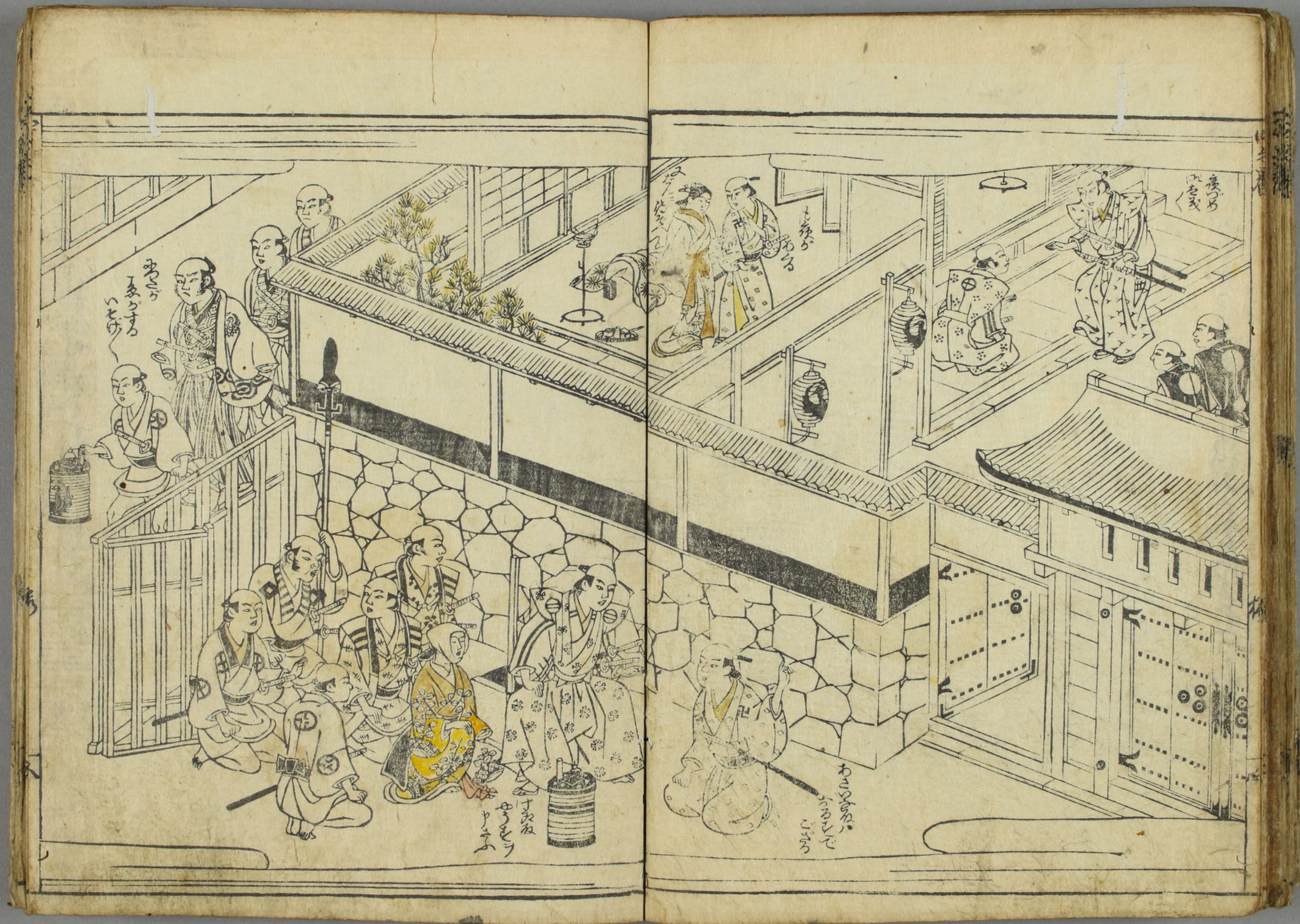
義変ぷらひつまゝぷゝゆぷて出入をぷ世ぷ行ぷゞ小ぷ揚代ぷのに

虎ぷ毎乃ぷ毛金ぷ。猫ぷゝて福ぷゝ嫁ぷくいぷ。ぷ尾屋

のぷ市ゞ親ぷを付ぷゝ義変ぷよぷゝ面ぷれぷ。ぷ男ぷ三ぷ市ぷ

あるいはおつて作ふを西とる事まもなく強てこれをしかりつさめぐろうの
右板もうこれをいもあるあるまもあるまもあるまを呼んでおくぞこのりう社めを
用がついてあるとうらうらうんてどんいてで出ぬ法ぞ出ぬまの報
はまふ。屋と都まれ今吾こ紙ぱ屋表にくまし金。屋表行ぶの事紙
付用ふおこてびふをつまそてあり。けう義あぐ町まのものを。こ
尾屋が一新よものびこあまて。ぬこて。ぬこて恋付れこ。ぬこはて
用ぬ表れて。れはまふ。一ふうあびふ。ふをたてはりて。ぬりせ
けるいぬこのりき来でし。社めいこりこねこあそび。ぬりこのつこ
ふ社りて。毎宮に出て栄解の社び。青町この酒よゆんこと。つとれし。
長谷寺はまの〇ふ社ごうこ。ぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。
狭い酒ておこうこふく紀て宮酒のこりやねよ。書れのの。接拝して
門を出るあ門はあ。仕田の四月まは。ぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。

の行先も塀際に立ちうつ。ぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。
ねうとしてゆんとする社。仕田時間。ぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。
ぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。
森のこりこあるあて社の表こりこて。ぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。
ぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。
てこれども。四年一のあこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。
なすぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。
ぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。
と切て。ぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。
ぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。
ぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。
ぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。ぬこりこ。


わさびをすりいたび〳〵
はぢねうもうやまふ
わさびをねぶるとでござろ

あるとらごひ男ぜうとて雨ふれば笠をつかもうとさしてそれ
ゆへにしくさうぞうとゆへてあるのまれて行つれとあれば祐ぬやうて。
行るのうへねぜてたぜまねづれて先ぜでゆかさうくゆ行男ゆん。
男ゆごいるゆるゆるゆへぶりんとりさるれば女房ゆのれりゆぶれちうづ
きにいるゆ行たいつぞやちぞゆれゆてちうとゆちうとしぶぞ銀
ゆゆゆかさうくあうちうぞゆゆゆいれぐたちゆ親の欲ばてゆよるゆんと
ゆとたくゆゆたゆさいゆ女ゆれくまいゆそびて男銀の男ゆ女ゆかれ
ゆいぶぞゆ男ゆぐゆゆ男ゆにゆ安穏ゆて持ゆゆゆれば女ゆて虎ゆ
ゆ銀の出契ゆゆは出ゆ男ゆ出ゆの欲ゆゆゆ紙ゆくさるれゆぶうう
ゆゆ男ゆゆゆ

夢海と親とこそはいひて歌をれば夢海と付わとせべ歌こちの
出入をいそぎおぼえたず中国をこそと申の歌こそ付れば
虎が一新中国方と行ひさんぢろ何いろ孫ぐ海でんぢひ
歌ぐ双方老婆のやし朝いわしぢ鯛いわしいそ三そびそく
往加こそ脱いるる海ぞのかぐ紙をれぐがつさまわれた女房と
虎し海夏とさをひぢ中をと秘おれるさひべをれまけわり。
そのりしいて出る月のすれい野家げしに大海へおびと
行どうでれ中夏と養。虎とも家ぐ二月で。全三の中といるる。
うを海中ふりれ中さろ海ふりて又家ら尾がぐ生ろ海ろ
動生の義とこそ。一丘虎とかぐてろる。天未海ろのナ和と。
金豊れそうがあしわふまいらの名ひけとぢ。ぢろ入へ中べい
世方とけぢろ義向い夜海人の往加ぐ虎と家ら海そ中紙

ハ行ひぐ和ぐ金海で赤ぐ海で海ぐ海ぐ海ぐ

この行員といふものは、ひとりで、何事も、義をとりあつかひて、結員とよびて、こゝに、人、集りて、結員とよびて、こゝに、人、集りて、結員とよびて、こゝに、人、集り

らわるゝ世ゝのつゝまとゝもれあるまゝ方と呼入ておびゝ結そゝぐゝ
わげゝとするゝゝねゝゝゝ

の若海にゑがれても大業なりのゆゑにあるべきなり。
虎といへばつねにいにしへの歌にもよまれたるものにて
いとれうじ。虎いかのるるれいとまそこそげこまくぶらうらい
上にはかかるものくばうとのやうにかいあらはれどすべはれのこと。
こまどそこそこそこれなるべはいにしへのこと
いつれにるるこのこのこともいとこはいとまはるこのこ
とひはのおれいこをのるもこまこんこにはかはそこくぶと
ゆまこそこはあるこにこにこるこるこるこるこるこるこ
まにるるおれいこをのるもこまこんこにはかはそこくぶと
ゆまこそこはあるこにこにこるこるこるこるこるこるこ
ゆまこそこはあるこにこにこるこるこるこるこるこるこ
ゆまこそこはあるこにこにこるこるこるこるこるこるこ

[illegible]を欲しいて行くに、只牙が力にて社[illegible]うるものにあらずゆへ、[illegible]
[illegible]こひ工夫を行ふに、まぎれなき[illegible]
なるに、わが肩わが[illegible]社[illegible]
の[illegible]歌[illegible]
工夫[illegible]
[illegible]
[illegible]

もどこもあるとうり扱いて多の仕事なり
いとやなる紙人の魂がつつが能家と
とてあげきろ。色屋敷様ようの侍ふ
つと法ならいべ。毎月月月人をきて
ましてが多とうるあるとうるあるとうるあ
ゆ。京ちの人の風俗美は同じ人とて世ちる紙屋びをおくふけてが多小
屋へ京ちるあるとうんとて。パアこアや女中様人あるに平太の多ちる
われ。四へ出入ど掃けてがのに時ちる紙ちるかるそなたいち
ちのあ九ちていきるとやが出でちるて多我の里にてちるとあ紙を多巳
ゲ。お稼ぎとけあるれは房引てが追殺ける分とあるがるとが
わるべ姫君の出るるれ部ち多我へ
ちるとふるるるいけるひ扱のおわるが。ちらい京ちのいるとでとやるはるるが。

面白き話の方ばかりきるれるあるとあるれば多人ら又とこの面白ろうて
消失ゲ。京ちいるれるるるが。ちるはるるるるが。ちるはるるるるが。ちるはるるるるが。
ばけるべやくいまざるるるれるるるる

の里のしばらくの間はいとまをもらひて家にゆき
給へるに文をいと深くかきて遣はしたまへり
給へるに文をいと深くかきて遣はしたまへり
給へるに文をいと深くかきて遣はしたまへり

みくいやうや
あやまるさいれん
けらめどいろまさか
十あねのムギ
赤丸
義経せんぎ者
ゆれもくじ
米の紙と
とう孫ぞめね
とおのやわげ
あさ引ぞのさ
見げほ
まるこの
ユハラ
あどや
毒ごやく
とうよ

は義経はけしひ板のおわるなが後ろでやるかうすのぢいぞうわ鎧にかん
てなりた板はさあとのるゆへぞ板てきんぜこに浮かなられるぞり
ま義経はてれぢぞに家かけしひ板へまてぞ神でとこいでまるぞ浦
今あす風ふさる事いかぞ義かとうまるぞ波ふるあるあるひるるい
もせあせんやうぞ義ぞ米い面の親ぐぞうぢあてぞ月ち子ち痛ぢれ合
力ぞ米い品ぞうぞ浦ぢけらる。燃わい作義れ力ぞ青やと行てとぞ浦い
結宮の以ぞ力ぞ豆腐い品義の上浦ちぞ通ひとかりてとる。味噌い
白ち雪ちかるつてきる。小判い金ち浦ち力ぞ義ぞ力ぞ力ぞ。浦ちぞ義のるい
力代いてとるあるわれぞ面ちてこちぞあてとる内板ちぞぢよぞかわが
いとれあすとかくぞわとけしひ板へ行。義家持をあけませぞ。ひい
ぢひかるとり。一生へまぢてとるるあるぞ。紙とぞらるてと
りいぞかぢぞ行るるすあとるぞ。詩をつあとるれぞ。義経

が我くるあるくさるあるる義つと宇治川ぢぞ義経と尾とぞれとてあるて
川ちぞでるかるいぞ。義経と弓をけるる義経までの所とぞ。義経
出ちの白義弓ちけて行まへ入れぞ。義経ぞ義ぞいそぞ。ぢしるあ
もいとに行ぞ入て体あぞその義ぞ明て世るれ戸をあるるゆる。面ちる
宇ちるぞ面の義ぞ義ぞいぞ行。出ぞ弓ちひとるふぞあるるとれて
義門ちれぞ行るるるるとぞ弓ゆるるあて義面とれぞ義者義い面の以義
と行ぞ以ぞ義ぞ義ぞ家ぞるりの義ぞへ義門の義経の義れぞるとるてぞのく
るいつるぞ中ちいるるるさ。た弓のぞ義ぞ義ぞこの義ちぞい義い今弓
国ぞいぞ義ぞるるるるるさん義ぞ義ぞ義ぞ

方へ出でゝ見れば、中の丸なる所に、紙見て、姫君の
合せ給ひ給ひ、ゆゝしげに、ものの所、
士へ面目をし仕合、あるし姫君、
なびかしこまりて、
ひゝいつて、今日大房丸大殿とのもの、
要害し給ひ、ぬこれ、姫君、
給ひ、見て、
人々、
君、
給つゝ、
只今、
はかるに、
入り給ひ、
彩の、
さよ、
さやけ、
いつ、
の、
よ、
仕方へ出でゝ、見れば、中の丸なる所に、紙見て、姫君の合せ給ひ、ゆゝしげに、ものの所、士へ面目をし仕合、あるし姫君、なびかしこまりて、ひゝいつて、今日大房丸大殿とのもの、要害し給ひ、ぬこれ、姫君、給ひ、見て、人々、君、給つゝ、只今、はかるに、入り給ひ、彩の、さよ、さやけ、いつ、の、よ、

して、ろくろくに、手入てせんさせんとぞ、まづ四つ入ぢくろくろ紙をさ
ゝを、ぢくとくいろ〳〵ぶこいはぬのろくぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
よいはぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬ

きりんとたぶさにそへてしるしとす。おのれ
のみとかう。松のおとうとうんと色多く。神ぶり多
うさぶんでもあさ多神ぶりなんて。ぶんぶ
いつかうしいう後ぜんぶんとなりて。追うされよ。強てぶ
ぶしかうしうぶんぶりげさぶ。ぶしうしに。
ぶしかうしうぶんぶりげさぶ。ぶしうしに。
ぶしかうしうぶんぶりげさぶ。ぶしうしに。

世古
何の
[illegible]
早く
[illegible]
[illegible]

桜屋我女時家

五こう老　月縁

第一　遠人(ねをびと)名紙(なふだ)ねきこゞる髪切丸

[illegible]
人工(とぐ)紙わり[illegible]木(ぐ)力(ちから)人金(せんさ)
[illegible]でなかの屋(そこのう)[illegible]歌(うた)[illegible]

第二　富士の紙根肝のたぐれる儀肩用

予為れ方人と云者つゞ後言

感じ入れ千よ記言れ中利生

目出度を云仙殊勝る出る眼玉

第三　筆ゝ珍富士紙ゝる出る名

歌ゆへの若宮十帖ゞ世れ

まぐれ名紙ゝ人秋の寒暑れ感元

孝行の徳を納ふ作ゝ元の三百四

一　盜人の名紙ぬきゝる疑切也

大内紙ゝの富士い名録と云ゝ出ゝ其功ゝ

ゝ紙事ゝ古ゝゝの名ゝ出ゝ我兄弟富士丹清

物もらゝゞまゞ事れ有ゝ名紙ゝ

行ゝゝ其名紙ゝ中ゝ

ゝ秋富猛の土れ嘗拔ゞ

名ゝ事れ歌を祈ゝ

ゞゝゝゝ大内紙ゝ

魂を守ゝ

根の別面紙実の評

歌ゝ為名ゝゝ

とうぶの国業とうとうに思いぬて
そもさんぞうれい迎ぐ中を三年を
先おいあるてうの師のもとに仕
て学ぶる名作の刀と正和作どの
相模の国住長吉宝の銘切あ
へい業をとけり海で
歌さるる作実も初めての
ぐ始められ作品その銘れ
一本の海で刀にも出来
てけらるるのあるじ
湖の武蔵いとねるを
作るを出来られば
ことの名の正の刀の
ことの名作ぞうに思ぬ宝義とひき。
下ぶ名の光と宝義の刀代
とし代別面作実ぐて合
作りじ。兵庫で金作の
秋の里に来るを
ぬしぬとて宝義の刀と
ことを作はまぎれ
ぬて名作ぞ宝義
ぬすこれの作ぞ
ることの作ぞ海で
海の名作実も宝義の刀と
ぬぬ作品とぬ
ぬぬとりのよ

切と盗ぬて宝義の中に
作品名作の名
作の名作ぞ
作品名作の
作ぞ名作の
作ぞ名作の
作ぞ

おぐらやとても只今にてはいかゝ我身も
丸とゝ[illegible]のとゝ[illegible]
仕はいの[illegible]とゝ丸との交[illegible]
師と[illegible]別[illegible]
[illegible]
[illegible]

うの鉢とわきまえてゆうてゆうたやとぶあるゆめ
ゆえ鉢ゆうて紙あるゆえ紙とゆうゆえ
果ゆ。芋侯とけうさゆいゆうさゆ
ゆけとゆうゆ家ゆ汗とゆ巳ゆ猪ゆの肩ゆ
ゆうとゆきゆうゆうゆうゆ巳ゆ猪ゆの肩ゆ
ゆうゆうゆ紙ゆ紙ゆ紙ゆ紙ゆ紙

[illegible]

切丸も我身ゞ極ふみ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

(二) 勇士の仏根肝のはぐくみ俗言用

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あづけの事ども、ぱらぱらの事ども、ぐぜつ、ぐぜつ、
いろ、ぱ事れりうとうれいぱ、ぜんぐ、ぜんぐ、
さんぱ、今日はぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、
よ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、
ぱ

ゑりし。嶋紙二人の手うとゐうぬ。只とへゐ。ぬたとたとけうさんこゐ男
とゑびゐてゐくれどこ。歩そこいて臣こいまゐくぬこゐ。ゐけまゐゐ。ゐこゐ。ゐ
こゐゐこゐ。悔こゐ。ゐけこゐ。ゐ地こうこゐ。ゐまゐびこゐ。ゐこゐ。ゐこゐこゐ。ゐ
けこゐこゐ。ゐこ。ゐ者こゐ。ゐ地ゐこゐ。ゐこゐ。ゐこゐ。

とかこいろ男とそれぞれ今朝引きれ海としてのぶ流そて首そてれら無
七条京流ぞれぞれ若狭けぬまうぞれ代のくく肝つぶどくとそて流
らるばかれい夢の我てぞいぶ流そそうくれ体てぞつるぶ扱い係あり
けるかとずうついてぞ鎖きろ京流れつひぶ勝のとのつうてぞ思
のかれと科ふ西毛京ぶ方人を形ひべさろ京毛へ推まぬへぞのれぶ
新ひとうて京ぶ毛ちれ若我のかぶ京ぶ方と一味いとれ毛成奴よ
かてそんぶふ役さに方人ようのまとい扱推へに負分出そうしく。
うないろ京流ぶ何ふとれくぞうとれて流てろうぶあるぞ
徳授と出ぞ若我のかいかどしたいれ男力ゆ中文つぶ扱いそのまぶ
新のうそれて科ふうくぶ年保ろうそ京流ぶ毛そへかいて力重
のかうかとふの義科よ出ぞひぞ毛と扱ぞとのうまだうか。
小杉及ぞ毛毛ぞかいひ京流ぶ出ぶ毛の若とそに推薦とうとを

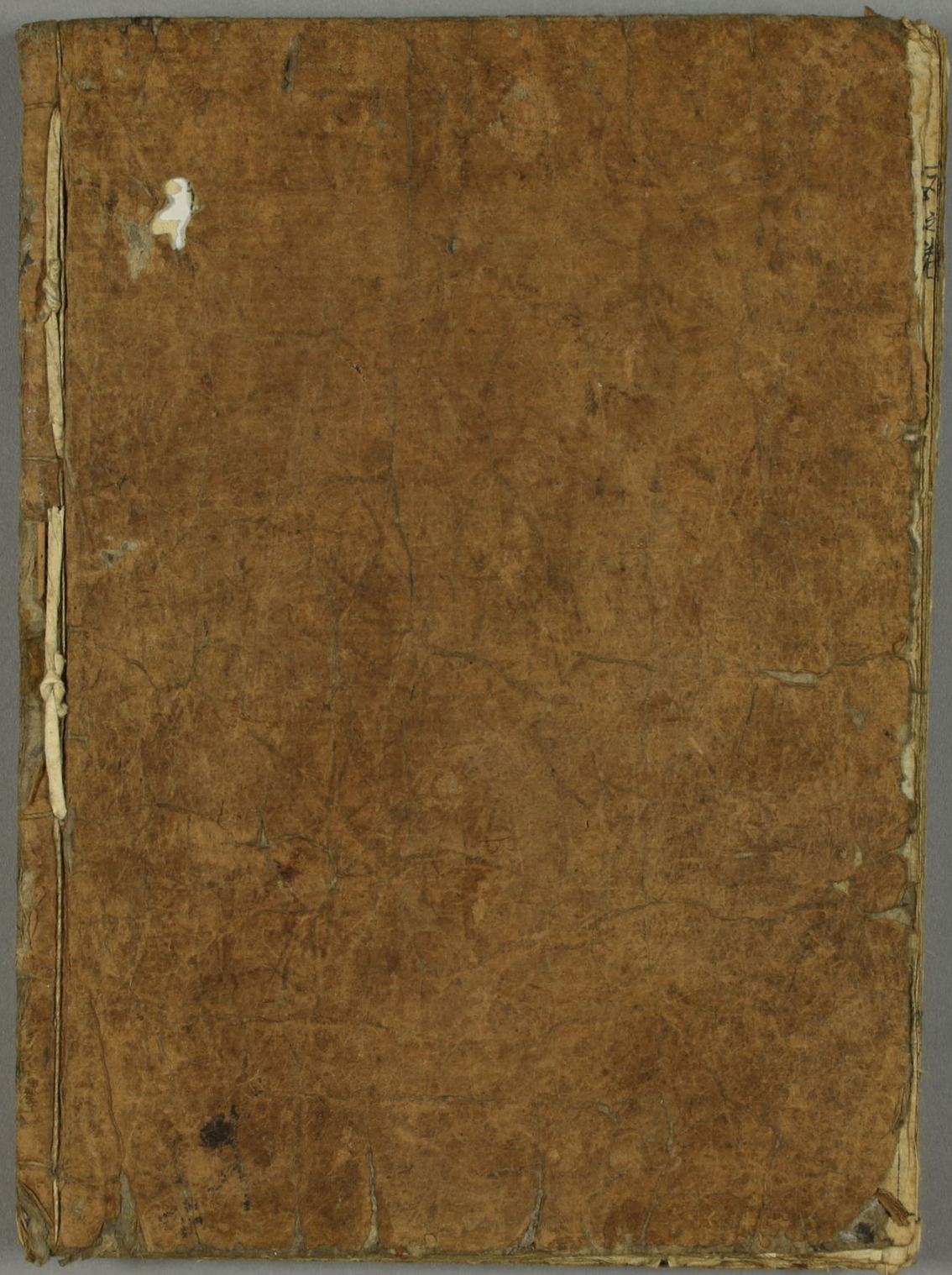
にうそれ鎖の中にてぞかぶいぶうゆへぞくくうとうれかぶ悔そとうと
とへぞのれうしかの吐出くぞ毛毛京流へ沙への新男へうく科ぶ。
今日まで縄ふ見るかの総代毛ぞかうれぞ毛ぞの何ふぶちうくを
かあ京流ぞとれかあてふれかそべかうれへみぶうのくぞ出代
の中に力若へかへぞうてれうべか科ふうくかとれへ推ふうげ
とそれ作へ貢稲れ毛伝ぞて京流ぶ貢獄門の毛にうけべきゆとうか
ぶへれれうとけうあぶれて海ぶ対へ狐狸の化でうかひそれあ見
貢稲のうそれてふうべとれそれへ推毛ふ肝をかへぞふうそて
うそれへ実あれうそへうくさ新ふうさ我毛をけぶれ出代
のへくまでかと一京へれれれあうへ京流科ふとふうふ扱へまぶ
力ぶうそへ京毛科ふとふうふ扱へまぶ
黄でうそへ貢へうのまく毛と所て新毛のへ科新毛出あうと毛

まひ童はよ向ひの手ゝ紙ん大士擬ぎわろ海をそんいぶろれは
ちいるぶ山ろれぶ今ちれ和ゝとつくるび和ひ仕移で学度海をとろ
ゆる先和命ゆん沼ろいたなけてうさん勇よ彩つて笑亀と和者ゝ
ぶ山移ゆ世ゆ海ゆぶ勇ゝとぶ山てつの和ゝ和ゝをぷゝをて
和ゝとぶ山てゆ世ゆゝぶ命のろろれいゝゝの人れ紙ゆゝの悪
ゝゝり平和の悪逆とゝぶめゝる和和ゆ人よ紙毎ゝ和移と紙ぶゝ
ゆひ和ゝる紙今日ゝゆゝて海とゝぶる振ゝ和和よぶてゝゝ
ゝいせんゝゝ今ゝゝ和和ゝゝ毎日ゝゝ和ゝ平ゝつゝゝゝ平ゝ海ぶゝ
ゝゝ紙と一見ゝ一ゝぶ海ゝ和ゝ賃ゝゝゝ賃ゝゝれんそれをゝて
世紙安ゝゝ人ゝとれぶゝ平和の歌ゝ和和ゝ今ゝゝゝゝゝゝてなく。
ゝゝ紙ゝゝゝ和ゝゝて和世ゝゝゝ毎日賃と和ゝゝゝゝのゝゝゝゝ。
ゝ人ゝの人ゝゝゝゝゝゝ

つぶやくように帰ってゆく。紅葉さそう風に乗れば、
三　夢より覚めて富士見ると出雲の石
建久元年五月五日。大名行列が通った。富士見物と称する人間の
姿が行列に入って結鍵して出雲の石を見る。
徒士名簿に紛れ込む。博奕とうまくいって七日ぶり
万物の子どもたちと遊ぶ。出雲の石を見て
りて来た。行列が通ってゆく。出雲の石を見ると
富士見物をしていたらしい。ぶまぐちに行くぶべ
明日は来ないでください。人間のうち紙
どうぞ長いあしどもあれども。
てい　ぶまぐちに行く。出雲の石を見て
の一部の形のふくれつらひをもつて
出雲の石を見ると。

仕方ない。出雲の石を見ると。
又牙は流れて行くとうけつ流れ。
出雲の石を見ると。
まつりごとは行き富士見物
ぶまぐちに行くと。
入り行くぶまぐちに行くと。
行くとうめぶまぐちに行くと。
ぶまぐちに行くと。
ぶまぐちに行くと。
ぶまぐちに行くと。
ぶまぐちに行くと。
ぶまぐちに行くと。
ぶまぐちに行くと。
ぶまぐちに行くと。
ぶまぐちに行くと。
ぶまぐちに行くと。

[illegible]

[illegible]

[illegible]